

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年5月29日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

アジア有数の歴史と知名度を誇る名門大学。授業は全て英語で行われ、中国、韓国、インド等からの本科生も多い。イギリス統治の影響もあり国際色豊かで経済的に重要な役割をアジアの中でも果たす香港において最も有名な大学の一つ。

留学した動機

厳しい環境に身をおく中で優秀な海外の学生たちの中で成長できると考えたため。授業が全て英語であれば留学先が英語圏である必要はないと考え、かつ将来存在感が増すであろうアジア圏を選択した。中でも特に国際色豊かで経済的に重要な地として有名な香港を。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部3	年生の	S1	学期まで履修
②留学中の学籍:					
③留学期間等:	2016年	8月~	2017年	5月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	S2	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2017年	学部4	年生の	11月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			40	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			4	単位
	留学後の取得(予定)単位			不明	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

就職活動を気にせず留学に打ち込めるベストな時期だと判断したため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

CEDARSという香港大の機関が指定する通りに動いていれば基本的に問題ありません。メールをこまめに確認しましょう。寮の申請は期限を忘れずに。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

上記のCEDARSが指定する書類を提出することで代行してビザを取得してくれるので手間はかからなかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

胃薬や下痢止め、解熱剤等基本的な市販薬は持っていく役に立った。予防接種に時間がかかるので早めに済ませました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大指定の保険に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英語はIELTS band score 7.0、中国語は普通語を第二外国語でやった程度。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

中国語が多少喋れると中国本土を旅行する際や、香港国内で英語が通じない場面で役立ちます。広東語を多少知っているとコミュニケーションの助けになると思いますが、自分は最初から最後まで全く知識ゼロで、問題ありませんでした。基本的に学生とコミュニケーションが取れば良いので、何よりも英語が出来ることが最優先だと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Chinese as a foreign language IV			Marketing		●
Chinese business environment			Advanced business communication		●
Corporate finance			Principles of management		●

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)
予習や課題は日本の大学よりは多く、欧米の大学よりは少ない、といった感覚でした。ただし、ビジネス系の授業ではほぼ全てにグループワークが課されるため、プレゼンテーションや共同リサーチの締切が集中すると大変忙しくなります。
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など
本科生は5-6科目取るのが通常ですが、3-4科目程度に抑えることでそれぞれに無理なく時間をかけられると思います。
④学習・研究面でのアドバイス
留学中に何を達成したいのか明確にした上で、自分がどの科目を取るべきで、そこにどの程度のリソースを割く必要があるのか、履修の段階でしっかりとイメージしておくことで、学びもその他の時間もより有意義なものになると思います。また自分が履修しようとしている授業の下見をする期間が与えられるので、妥協せず気に入った講義を取りましょう。一方で人気講義は本科生が優先され、留学生は弾かれるという事態がまれに発生し、自分もその結果望まない講義を取らざるを得ないということが前期では起きたので、事前にプランBを練っておくことも重要です。
⑤語学面での苦勞・アドバイス等
授業やコミュニケーションは全て英語なのは良いですが、まれに教授が強い中国訛り、香港訛り等を持っているため聞き取りづらい、ということも起きます。ただ上記同様、事前のshopping around期間に自分の好みの教授を選ぶことで、この苦勞は避けられるはずなので、気になる方はこの点も意識して選ばれると良いかと思います。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
年20万円程度の大学のJockey Village2内の寮に応募しました。ジムに近い・大学が徒歩圏内という点が良いです。食堂も付いていますが質は△です。夕食は学食かバスや電車で市街地へ移動し取ることも可能ですが、やはり平日はKennedy Townで外食することが多くなり、Shun Hing寮の便利さが際立ちます。基本的にかなり狭い部屋でダブルルームなので、希望されない方はシングルを寮を探るか、アパートメントをオススメします。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
年中非常に湿度が高く、春～夏はすぐに衣類にカビが生えます。乾燥剤をこまめに変えましょう。交通に関しては地下鉄で30分以内に主要な場所全てに行ける他、バスを使いこなせるようになると更に生活しやすくなります。お金に関してはVISAカードのデビット・キャッシング機能を使っていました。ただし変換レートや手数料等を考えると最もコスパが良いのは日本円の「重慶大廈」での両替です。空港等の両替レートとの差に驚くはずですが。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
大学に病院があり無料で診察・処方してくれるので軽い風邪等の際は頼りましょう。ただ薬があまり効かないことで有名なので、重症の場合は街の病院にかかり処方してもらいましょう(保険がないので医療費は割りと高くなります)。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
食費6万円、寮費1.5万円、その他1万円
・留学に要した費用総額とその内訳
100万円(食費60万円、寮費20万円、その他20万円)
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
月7万円の奨学金。東大に勧めていただいたFung Scholarshipから。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)	
香港商工会でのお手伝い、ジム、海外旅行	
派遣先大学の環境について	
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)	
ウェルカムイベント等で一通り必要な情報を共有してくれるため問題はない。語学や学習面でのサポートは特になかった。	
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)	
ごく普通の図書館とキレイな自習室があるが基本的に混んでおり、試験期間前は供給が追いついていない感がある。法学部図書館が実は自習室の近くにあり、意外と空いているのでオススメ。Flora Hoというキャンパス外のスポーツセンターは施設が大変充実し、中でもウェイトの充実したジムには大変お世話になった。	
留学と就職活動について	
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど	
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響	
日本に限らず国際的に活躍できる可能性のある職業に就きたいという留学前の希望が強まった。今後海外で働く機会があってもきっと楽しくやれるだろうという自信がついた。	
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)	
特にしていません。	
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
	3. 公的機関(機関名:)
	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
	5. 民間企業(企業名又は業界:)
	6. 起業(分野:)
	7. その他()
留学を振り返って	
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感	
日本での人間関係や実績などの文脈から離れ、何者でもないゼロの状態からチャレンジングな環境に立ち向かっていけるのは留学ならではの経験だと思います。その中で嫌でも自分と向き合うこととなり、日々己の未熟さを突きつけられたことも貴重でした。また心理的な変化のみならず、トレーニングで体格が大きく変わってしまったことも些末な様で大きな収穫でした。主体的に動くことが求められる中で、知識・心・身体、何か一つでも毎日成長できているか己に問いながら毎日過ごすクセができたことは、自分にとって大きな財産であり、これからも大切にしていきたいと思っています。	
②留学後の予定	
6月から東大の授業に戻り、興味のある企業のサマーインターン等に参加する予定。	

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

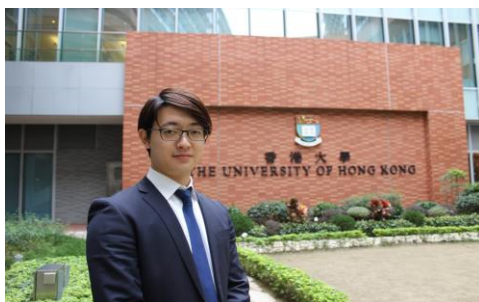
家庭や収入のリスクを背負うことなく、自由に海外で1年近く過ごし好きな成長の仕方を出来るというのは、まさに学生身分である今しかできないことだと思います。一生思い出に残る経験になるはずです。迷ったら一歩踏み出してみてもいいのではないでしょうか？

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

香港に留学された方のブログ、東大の留学アンケート

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年5月10日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	香港大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港大学は香港の国立大学の一つで、理工系、社会科学系、人文学系全ての学部を有する総合大学です。

留学した動機

海外の大学院で博士号を所得することを目標にしているが、自分は海外経験が乏しく、また一人暮らしもしたことがなかったので、事前の練習として学部で留学しておこうと思った。自分は寒さに弱いので、日本に近く温暖で生活費も低く抑えられそうな香港を留学先に選んだ。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:					
③留学期間等:	2016年	8月~	2017年	4月	年時に出発
④留学後の授業履修:	2017年	学部4	年生の	S2	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018年	修士1	年生の	10月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			91.5	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			12	単位
	留学後の取得(予定)単位			29.5	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学	2018年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

学部3年に進級して勉強が進んでから博士への進学を考え出し、そのために留学を決断した。そのため直近で応募できるタイミングで全学交換留学に申し込むとなると今回の時期となった。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ほぼ全てメールでのやり取りなので問題なく行えた。金銭に関する英語は意味がわからないことが多くあったので、その都度細かく聞いていた。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

留学生用のビザを所得した。香港ではこのビザを所得すると現地でいかなる労働も許可されないので注意が必要。実際、自分は現地の先生のリサーチアシスタントとして働く予定があったが、このビザの制限に引っかかりビザの更新を余儀なくされた。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

予防接種は特に必要ない。風邪をひいたときの薬や湿布などは前もって日本で大量に入手して香港に持ち込んだ。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学で提示されたものに加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

卒業論文は留学前に申請しておかないと書けないので注意。ゼミも事前に継続届けを出す必要がある。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

TOEFLは93点で、その内訳はR29,L20,S19,W25だった。リスニングとスピーキングには不安があったが、専門分野であれば議論や質問の場でも問題なく理解、発言できた。しかし日常会話はほぼ聞き取れないので気まずい思いをした。カントン語の勉強は行っていない。現地でもローカルな店以外では英語で通じるので生きてはいける。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

自分以外の他者、例えば恋人や家族に精神の安定を依存しているならば、留学前に自分のコントロールできる範囲で自己肯定感を充足させられるようにしておくべきだ。留学中にその依存対象が欠損する可能性は大いにあり、そう言った状況下で充実した留学生活を続けるのは非常に困難である。精神の自立を達成しておくことを強くお勧めする。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Games and Decisions	6				
Computational Statistics	6				
Big Data Analysis	6				
Survival Analysis	6				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

課題、出席、チュートリアル、中間、期末が全ての科目で評価の対象とされた。HKU Moodleというコースごとのサイトがまとまっているサイトがあり、レクチャーノートなどはそこからダウンロードでき、レポートの提出もここから行う。自分が履修したのはほぼ座学だったが、発表や議論の場も適宜用意される。院生も学部生もごちゃまぜの授業だったので自分よりも知識のある人の話を聞けるのは楽しかった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期あたりに2科目ずつ履修した。自分の興味を探索することに時間を注ぎたかったので科目数は無理のない程度に抑えた。Computational Statisticsなどはそれでも一つの課題を終えるのに数十時間を要することは珍しくなかったが、東大でも同じようなものだったので、特段大変という印象は抱かなかった。

④学習・研究面でのアドバイス

精神面での余裕を保つためにも無理ない履修計画を組むべきだと思う。今や世界のどこでも学部レベルであれば提供される授業の質に差などないので、せっかく作った自分の時間を何に使うのが最も有益なのかを考えて欲しい。また、現地の先生は気さくに話を聞いてくれるので部屋を訪ねて考えていることを話すことも可能である。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

日常会話への参加がとにかく出来なかった。現地の学生同士も自分があると英語でしゃべってくれるが、それでもわからないので気まずかった。マレーシア、韓国、フランスあたりの国から来ている留学生は日本人と同じぐらい英語が苦手だったのですぐ仲良くなれた。酒の場やスポーツに参加すると会話をしなくてもなんとなく仲良くなった気がするので楽。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

香港大学のRicci Hallという寮を利用した。男子寮で、香港では珍しい一人部屋の寮である。水回りや廊下などは毎日掃除され衛生的には何の問題もない。大学からの案内に従って申し込んだだけだが、他の留学者の話によるとこの寮になるかは抽選のようなので第1希望に通るとは限らないことには注意が必要。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏は日本の方が暑い気がするぐらいだが、冬は思ったよりも寒い。1年中半袖というわけには行かず、冬場はパーカーぐらいあった方がいい。食事は平日は寮で提供されたものを、休日は大学の学食をりゆした。銀行口座の開設に必要なaddress proofは日本で事前に入手しておく必要がある。自分は入手していなかったので口座開設を諦めて、友達が遊びに来た時に幾らかの現金を日本から運んでもらっていた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は良い。上にも書いたがとにかく自分のコントロールできる要素で自己肯定感を充足させられるようにしておいたほうがいい。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

休日の生活費: 100×8
雑費: 300(教科書は図書館を利用したので購入していない)
合計: 1100香港ドル

・留学に要した費用総額とその内訳

上の8ヶ月分: 1100 × 8
寮: 30000

合計: 38800香港ドル(58万円)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

月に7万円、大学支給の奨学金を受給した

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

香港科学技術大学の先生のもとでリサーチアシスタントをした。コーディングや分析が主な仕事だった。現地でできた友達とランニングを行っていた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

ほぼない。望めばあるのかもしれないが、精神的にやられるとそういったものを望む気も無くなるので自分は何らサポートを受けていない。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は充実している。E-bookが東大に比べ整備されているのはかなり良かった。ジムやプールも利用可能である。学食は日本のフードコートのような形式であり、手軽に利用できる。市街地に比べれば安く食べれるので良かった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

民間就職は今の所考えていないのでよくわからない。日本の住環境の良さを再認識したので公務員への意識は少し高まった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

特になし。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

自立できてなさが身にしみてわかった。学部交換留学という失敗できる環境で留学を試してみて本当に良かった。それに従って努力の方向性が定まったのも良かった。そういった面で大きく成長したと思う。一方で、すでに一人暮らしを経験していて、自身の趣味などの充実した毎日を送るための手段が確立されていれば学部で留学に行く意味は特にないと思った。

②留学後の予定

東大で修士過程に進んだのち、海外で博士号を所得する。研究への適性がないと決心できたら修士で卒業しデータ分析等の仕事に就こうと思う。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

東京で生まれ、意識的な精神安定の手段を持たないのになんとか充実してしまっている人が、自分の依存経路を特定するために1年間自分を隔離してみるのはいいと思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2017年 8月 28日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	香港大學
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input checked="" type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

香港島東部に所在する、香港トップランクの大学。

留学した動機

Faculty of Business に興味があったため。英国系会社法を学びたかったため。アジアのビジネスの中心たる香港でビジネスの最前線で働く人々と交流したかったから。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2016年	学部2	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2016年	8月~	2017年	5月	
	学部2	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2017年	学部2	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018年	学部3	年生の	1月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			57	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位
	留学後の取得(予定)単位			57	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015年	4月入学	2020年	4月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

司法試験の受験と、留学を両立したかったから。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

いわれた通りのことをやっただけ。入寮の競争率が高いので、寮の手続きは早めに。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

学生ビザ。バイトインターンには別に就労ビザが必要。ビザを現地で受け取る場合には、香港には観光ビザで入国、一旦マカオなどへ出国し、学生ビザで入国することでビザを有効化する。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にしなかった。学生は病院が安い。現地の薬局や病院も充実

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大手続きのもののみ。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

休学、留学の手続き。法学部専門科目をどうするかなどでなかなか大変だった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英語が通じるが、広東語ができるると便利。中国語を最初から話すと露骨に差別に会うことが多いので少しは広東語をやっていたほうがよい。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

文房具や日本製衣服など。香港では日本製品が割高となる。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Cantonese					
Marketing					
Company law					
Rule of Law					

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

Rule of Lawの教授は、香港民主化を指導し、共産党に目をつけられている教授だった。広東語はとても役に立った。それ以外の授業は、内容が浅く、英語を使って勉強すること自体に慣れてしまうとばかばかしくなった。授業中無駄に発言をし、簡単な問いかけにいちいち答え、授業後に無駄に質問に行くと成績が上がるシステム。(テキストの決められたところを読んで理解して授業に行くとそのような疑問もほとんど生まれないので生産性が低い。)グループワークでプレゼンをする機会がなぜかやたらと多いので、プレゼンをする能力と英語力だけは高まる。これについてだけは非常に成長できたと思っている。ただ、適当にギャグを飛ばして聴衆を惹きつければ自然と評価が高まる単純なシステムなのでこれも慣れてしまうと難儀しなくなる。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1コース、週に3~4時間。週に4~5コースとるのが標準。忙しい現地学生は6コースとって苦勞している人もいたが、1コースだけ取ってインターンなどをしている人もいた。ビジネスは簡単な授業が多いので予習復習はテキストをサラッと流し読みする程度で十分、あまりきちんとやりすぎるとすべて理解済みになり、授業に行く意味が全くなくなる。(現に自分がそうだった)

④学習・研究面でのアドバイス

英語をしっかりやってください。日本人の下手な英語はなめられます。逆に英語がしっかりしゃべれると、もともと考へてることのレベル(ギャグのレベルなども含む)はかなり高いので、誰にも尊敬されるようになる。また日本に興味がある人も多いので、特に欧米人やインド方面の友人も含め、交流も一気に広がる。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

英語を極めろ。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮。トイレ、シャワーがフロアで共用で、衝撃。部屋にはベッドと机と収納のみ。トイレ、シャワー、キッチン行くのにいちいち鍵が必要。昭和日本か、と突っ込むレベル。しかし、それでも、香港大学の寮の中では一番良い環境だったらしい。住宅環境の悪い香港ならでは。寮は一学期、10万円ほど。香港の一般的家賃と立地を考えると破格の安さ。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

デビットカードで現金ゲット。日本への一時帰国時や、家族来訪時に日本円の現金を持ってきて重慶マンションという裏市場のようなところで換金すると、レートが異常によく手数料などで失う金を最小限にできる。香港の日本人の間では有名。ただし、金融筋などでさらにレートの良い店を紹介してもらうことも可能

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

スポーツ施設がやたらと充実しているので健康を維持できた。景色抜群の公共の50Mプールが夜十時まで空いていて、学生だと一回百円ぐらいで泳げるので最高。病院には一度も行かず。治安は、とても良い。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

日本の生活費とほぼ同じ。外食が高くないので(自炊に比べてあまり高くない、そもそも全体的に物価が高いうえに、日本と同じ水準の味、品質を求めると日本の倍はかかるが。。)毎食外食しても驚くほど高価にはならない。

・留学に要した費用総額とその内訳

奨学金をぴったり使い切るぐらい。食費、寮費。洋服などは留学前一年ほど新たに買わず、傷んで捨てる前提の物を持って行っているの、ほとんど新調したがそれも込みで。また、月に一度程度の澳門旅行、中国本土への旅行代もここから捻出。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

BXAIという財団から、150万円ぐらいいただいた。条件は、Summer Programに参加すること。今年は台湾で行われた。いただいた金額を考えると、非常に緩い条件であった。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

澳門に何度も行った。ギャンブルは学生なので楽しみ切れなかったが、街並みがとても美しいのでハマった。中国本土に陸路で行けるので、鉄道を使って旅行に何度か行った。深圳、広州などは広東語が通じるので便利だった。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特になし。言語面なども自分で友人を作ればよかったので、大学が提供しているものは特に利用もしなかった。(そもそも提供されていないようであるが。。)

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

PCが性能低くてゴミだった。ジムは無料で使用可能、非常に充実していた。食堂も驚くほどまずいことで有名。図書館や自習室はグループワークなどで部屋を借りて使えたので便利だった。図書室や自習室全体の雰囲気は、自学するにはあまり良くなかった、妙にざわざわしている感じ。より騒がしい街中のスタバか、より静かな自室の方が集中できたので、大学の施設は自習には全く使わなかった。また、どこに行っても冷房が強くて寒い。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

やはりアジアが今、お金を生んでいる、という雰囲気を味わえた。また、いくらきれいごとを言ったところで、まずは金を一定程度、稼がなければ話にならないという現実を味わえた。(香港とはそういうところである)

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

司法試験の勉強

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

欧米式の教育、人付き合いetc...を学べた。そして、何をとつても、やはり日本が世界で一番であるという実感を得た。日本人というはっきりとしたアイデンティティを持っている自分を幸せ者だと感じ、将来も日本のために資本を生み出さなければならないという使命感を得た。

②留学後の予定

司法試験の勉強

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

とにかく、香港は刺激の多い街、場所なので、大学である程度英語での勉強でコツをつかんだら、街に飛び出し、今もっともエネルギーにあふれている香港、中国、アジアを身をもって体感してほしい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。